議員提出議案

意見書(要旨)

第2回定例会では意見書2件を可決し、議長名で関係行政庁へ提出しました。要旨は次のとおりです。

婚姻歴のない母子家庭の母についても税法上の「寡婦」とみなし控除を適用することを求める意見書

婚姻歴のない母子家庭の母には、税法上の「寡婦」が過去に法律婚をしたことのある者と定義されているため「寡婦控除」は適用されない。日弁連は婚姻歴のない母親に寡婦控除を適用しないことは、法の下の平等を保障した憲法14条に違反し、その子どもに経済的不利益をもたらすことから子どもの権利条約や差別を禁じた国際人権規約に違反していると報告している。

よって町田市議会は、税法の寡婦控除制度を改正し、婚姻歴の有無に関わらず適用することを求めるものである。

内閣総理大臣ほか四件あり

風しんワクチンの不足を解消する措置を講ずることを求める意見書

今後、風しん予防接種者が増加の一途をたどる見込みで、現状では本年8月末には風しんワクチンが不足するとされている。その対応策として、国は検査で抗体が不十分だった妊娠希望者や、妊婦が近くにいる男性らの接種を優先するようすすめている。

ただし、それでは抜本的な対策にはならず、国においては国民の健康増進の施策として、風しんワクチンを速やかに確保して、安定供給することが急務である。

よって、国が責任を持ってその風しんワクチンの不足を解消するための必要な措置を速やかに講ずることを求める。

内閣総理大臣ほか四件あり

請願の審査状況

平成二五年第二回定例会には五件の請願が提出され、継続審査となっていた二件とあわせて審査を行いました。結果、一件が採択、二件が不採択、四件が継続審査となりました。

なお、継続審査となっていた請願のうち、一件は取り下げられました。

詳細は次のとおりです。

【取り下げられた請願】
◎野津田公園の上の原広場西側の平地(通称「上の原はらっぱ」)における暫定駐車場

採択

◎子宮頸がんワクチンの接種による重篤な副反応が多数生じていることを考慮し、市民に対して重篤な副反応などのデメリットについても十分に正確な情報を解りやすく伝えることを求める請願

不採択

◎子宮頸がんワクチンの接種による重篤な副反応が多数生じていることを考慮し、ワクチンとの因果関係がはっきりとするまで同ワクチン接種の一時見直しを国へ求める意見書提出に関する請願

◎韓国との友好を更に進めるため、安倍首相は「河野談話」

継続審査

◎福祉の為に市に寄贈された土地の売却をしないよう求める請願

◎くじら山環境保全を求める請願

◎家庭系「生ごみバイオガス化施設」計画の再検討を求める請願

◎「生ごみバイオガス化施設」計画の見直しを求める請願

請願の処理経過及び結果報告

平成二五年第一回定例会において採択された請願について市長から処理経過及び結果について報告がありました。

「薬師池西公園整備基本計画の基本コンセプト」を堅持することを求める請願

請願項目一について

請願要旨にある、年間利用者目標数の「一〇万人」は、一日当たり二七四人、土曜日・日曜日のみに換算しても一日約九六〇人の予測であり、この数は決して過大な人数ではなく、環境等への負荷は限られていると考えております。

また、導入施設として挙げている、景観作物の植栽計画等も、現在の地形等を尊重した計画とし、荒廃してしまっている耕作放棄地の再生を図り、景観に配慮しようとするものであります。

よって、薬師池西公園整備基本計画における「谷戸山の自然や景観と、そこから育まれる地域文化を後世に継承することができると公園づくり」の基本コンセプトと整合する内容であります。

請願項目二について

町田市では、町田市緑の基本計画二〇二〇に記されている「緑地の保全・活用計画の策定」を市民の皆様やNPO法人の方々などと協力して進める考えでございます。

よって、「薬師池西公園整備基本計画の基本コンセプト」に沿い、「市民との協働による緑地保全」、「市民と共に市民のための公園づくり」を進めてまいります。

学童保育クラブの指定管理者選定においては、公益性・継続性を最重視した応募条件を設定することを求める請願

学童保育クラブ事業は、児童福祉法により市町村がその

実施と利用促進に努めるよう規定された事業であり、その実施にあたっては、高い公益性が求められています。

一方、指定管理者制度は、民間事業者等の専門的な手法や経営ノウハウを活用することで行財政の効率化を図り、同時に利用者の満足度を上げ、より多くの利用者確保を狙いとするものであり、指定管理者の選定にあたっては、広く応募を可能にするなどの公平性も求められています。

また、導入施設として挙げられている、景観作物の植栽計画等も、現在の地形等を尊重した計画とし、荒廃してしまっている耕作放棄地の再生を図り、景観に配慮しようとするものであります。

よって、薬師池西公園整備基本計画における「谷戸山の自然や景観と、そこから育まれる地域文化を後世に継承することができると公園づくり」の基本コンセプトと整合する内容であります。

町田市では、町田市緑の基本計画二〇二〇に記されている「緑地の保全・活用計画の策定」を市民の皆様やNPO法人の方々などと協力して進める考えでございます。

よって、「薬師池西公園整備基本計画の基本コンセプト」に沿い、「市民との協働による緑地保全」、「市民と共に市民のための公園づくり」を進めてまいります。

第1回臨時会を開催しました

平成二五年第一回町田市議会臨時会が、七月八日に開催され、第五〇号議案平成二五年(二〇一三年度)町田市一般会計補正予算(第一号)の再議について審議されました。

第五〇号議案は、六月二八日、第二回町田市議会定例会の本会議において、風疹の予防接種費の全額助成を含む修正案が賛成一六、反対一五で可決されました。

これに対し市長は、議決に対する異議があるとして、七月一日、再議書を議長に提出し、八日の臨時会を告示しました。

臨時会では、再議の件は、常任委員会での審査は省略され、本会議での審議となりました。

審議の結果、採決では、先議の議決(修正案を含む第五〇号議案の可決)が再度可決することに必要な賛成(議長を含む出席議員の三分の二以上)はなく、賛成一七、反対一五で否決となりました。

続いて、原案である第五〇号議案が採決され、賛成多数で可決となりました。議決後、可決された原案に対する附帯決議案が提出され、賛成多数で可決されました。

再議の理由

地方自治法第一七六条第一項の規定に基づき、市長から議長に提出された再議の理由は、次のとおりです。

(理由)

そもそも、任意で受ける予防接種については、個人の自己防衛を目的としたものであるが、全額自己負担で接種すべきである。しかしながら、町田市はこれまで、市民の安心と安全を確保するために必要な場合には、例外的に接種費用の一部を公費で助成することでワクチン接種を奨励してきた。

群の予防という緊急性を鑑み、同様の扱いとした。助成にあたっては、ワクチンの全量に限りがあるため、真に必要な者が接種できるように対象者を限定した上で、適切な自己負担額を設定した。

自己負担額の無料化はこうした原則や政策意図に反するものであり、適切でない判断し再議に付するものである。

臨時会の質疑から

議員 個人の自己防衛のため全額自己負担が基本との見解を示しているが、同じ任意接種であるおたふく、水ぼうそう、B型肝炎等に対しても同様の原則を定めているのか

地域保健担当部長 現在のところ、町田市が接種費用に対する助成を行っている任意接種は、今回の風疹ワクチンを除いては成人用肺炎球菌ワクチンのみであり、勧奨のために助成を行うことは極めて例外的になります。

議員 五、〇〇〇円が自己負担の適切と言える根拠は。地域保健担当部長 現在実施している成人用肺炎球菌ワクチンが半額程度の助成をしており、それと同等な扱いにしたということです。

議員 五、〇〇〇円というのが抑制になるのではと考えますが、低所得者への対策というの、今回のこの自己負担の決定には考慮はされたのか。地域保健担当部長 基本的には他の者と同様ということ、特に特別の制度を設けていないわけではありません。

議員 全額公費負担をされている八王子市、多摩市との違いは。地域保健担当部長 町田市が今回の予防接種について自

症候群の予防に特化しているところであり、政策意図が違っていると考えています。

議員 一人でも多くの方が打っていただき、その感染リスクを減らすというのが行政の判断するところだと思いが。市長 今回の修正案は助成の自己負担に対する無料化のところが焦点です。任意接種に対する助成という意味ですが、ワクチンの全量に限りがあるということで、真に必要な方が接種できるように対象者を限定したということ、任意接種の全額自己負担の原則を参考に適切な自己負担額をお願いしたということです。

第五〇号議案に対する附帯決議
内容は次のとおりです。
一、市は、ワクチンの安定供給が見込まれた時点で、助成額の見直しを含め自己負担額の減額に努められたい。

再議について

再議には、法の規定に基づいてしなくてはならない再議と、市長が議決に異議がある場合にできる再議があります。今回は、後者にあたり、地方自治法第一七六条第一項の規定で、市長は、議会の議決に異議があるとき、再議に付すことができるとしています。

会議では、この再議の件が議題となります。市長が異議ありとした先の議決と同じ議決をするかどうかは焦点です。その際、同じ議決をするために必要な賛成は、議長を含む出席議員の三分の二以上となり、可決の場合は、その議決が確定します。

町田市議会では、昭和五六年の第一回定例会以来、三二年ぶりの再議となります。